



虹のかけ橋

第25号 / 平成20年1月



<お正月のしめ縄作り>



<近くの農家で芋掘り体験>



<消防士との消火訓練>



<こんにゃく作りに挑戦>



<水力発電所を見学>

地域の教育力を生かす

但馬やまびこの郷での4泊5日の宿泊体験の中に、「地域と交流しよう」という活動があります。地域に出かけ、緑豊かな自然に触れたり、地元の人と交流したりする活動をしています。例えば、朝来市内を中心に、自然散策やサイクリングをしたり、いろいろな施設を見学したりします。地元の人に来ていただいて、こんにゃく作りやしめ縄作りを教わることもあります。

子どもたちは様々な世代の人々と交流し、地域に根ざした多様な体験を積むことで、豊かな人間性を育んでいきます。

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>

保護者の思いを考える

～不登校児童生徒の保護者とのかかわり方～

不登校児童生徒の再登校を支援する際、保護者との連携は不可欠です。ところが、学校からの相談の中で、懸命に働きかけても、なかなか聞き入れてもらえない家庭があることをよく耳にします。

今回は、今年度当所に入所した子どもの保護者を対象とした「保護者アンケート」の結果（12月末現在）から、保護者が子どもの不登校をどう捉え、どのような学校とのかかわりを望んでいるのかを考えてみました。

不登校の要因について

「保護者アンケート」において、不登校の直接のきっかけの回答を分類すると、「学校生活に起因する」と答えた割合が最も多く、全体の7割強を占めています（図1）。

概して、不登校の要因を考えると、学校は本人や家庭に問題があると考え、保護者は教師や学校の対応に問題があると考えることが多いようです。

しかし、不登校の要因について、その原因探しにエネルギーを費やしても状況の変化は期待できず、いたずらに時間が過ぎていき、不登校を長期化させることになりかねません。

学校に問題があると考え保護者も、最初は「私の育て方が悪かったのだ」と、まず自分を責めることが多いように感じます。そのうち、徐々に自分だけを責め続けることに耐えられなくなって、原因をどこかに持って行きたいと思うようになるのではないのでしょうか。保護者の攻撃的な言動の裏には、追い詰められた辛い思いがあることを頭に置いて対応することが大切だと考えます。

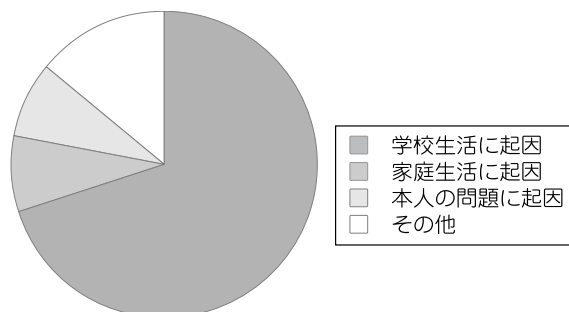


図1 不登校になった直接のきっかけ

家庭訪問について

家庭訪問の状況について、実際の頻度と、保護者の希望を聞いたものが図2です。

約半数の保護者が週1回程度の家庭訪問を希望しているのに対し、実際には週1回の訪問は難しいようです。本人が先生に会いたくないと言うので、来ないで欲しいと保護者から言われることもあると思います。しかし、しばらくそっとし

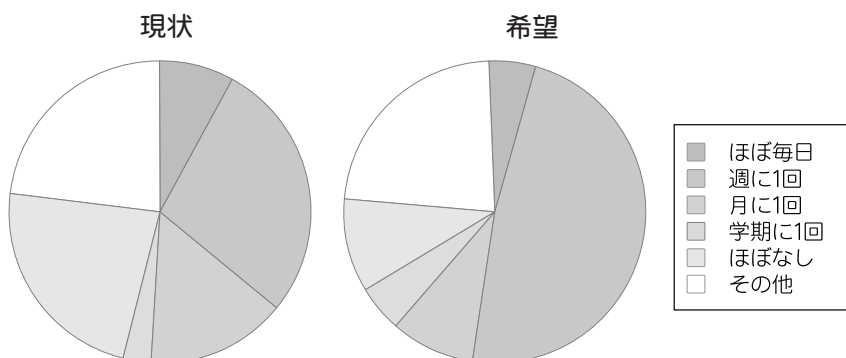


図2 家庭訪問の頻度

ておこうという配慮が、学校に見捨てられたという思いを子どもや保護者に抱かせることもあります。少なくとも保護者とは、電話でもよいので、連絡を取り続ける必要があるでしょう。

さらに、図3から、家庭訪問は、ほとんど担任の仕事となっていることが想像できますが、保護者の思いは、必ずしも担任に来てもらわなければならないというものではないようです。担任一人で抱え込まずに、担任以外であっても、家庭と連携を取ることができればよいのではないのでしょうか。

図4は、家庭訪問の際、先生に話してもらいたい内容を保護者に聞いたものです。

「クラスの状況」を知りたいという保護者が最も多いのですが、特に中学生の保護者は、子どもの進路のことを気にしていることが多く、できるだけ多くの情報の提供を求めています。

ただし、これはあくまで保護者の意見ですので、家庭訪問をしたときに何を話すのかは、子どもの状況によって慎重に検討しなければならないと思います。

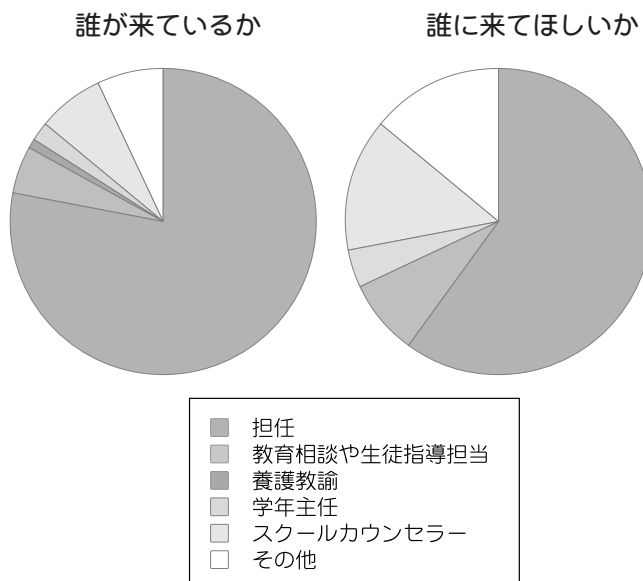


図3 家庭訪問をする人

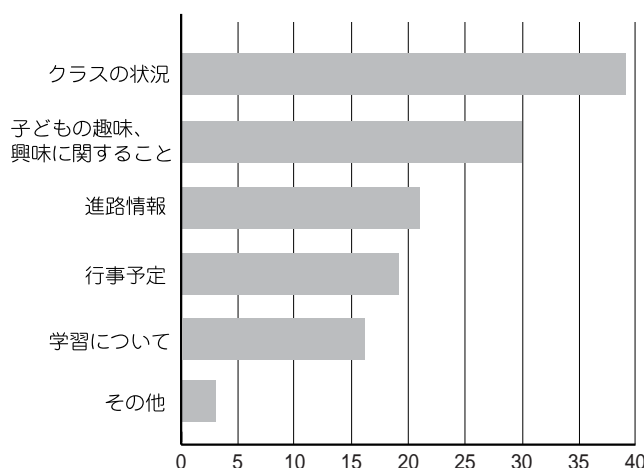


図4 子どもに話して欲しい内容

基本は「聴く」こと

不登校児童生徒の保護者を支援する際は、まず保護者の声に耳を傾け、受容・共感的に情緒面でのサポートを行うことが大切です。担任が自分の思いや学校の考えを伝えるよりも、まず親身になって保護者の声を聴く姿勢をもつことです。学校や担任への批判、わが子に対する不甲斐なさ、子育ての不安等、さまざまな思いを一旦外に出してもらおうことで、協力関係に向けてのステップを踏み出すことが可能になります。

また、担任自身も本人に一番近い立場にあり、責任を持って真剣に取り組むあまり、往々にして一人悩み、落ち込んでしまうこともあります。担任が一人で抱え込むのではなく、生徒指導や教育相談担当の教諭、養護教諭等とチームを組んで対応する必要があります。家庭との連携を考えると、こうした校内チームによる支援活動を行った上で、プライバシーに留意しながら、家庭の様子や人間関係にも目を向け、適切な支援を行うよう心がけたいものです。

やまびこフェスタ — 不登校・今 —

昨年10月28日(日)、但馬やまびこの郷の施設及び教育活動について公開し、「不登校」に関する情報をより広く一般県民に対して発信するため、県民交流事業「やまびこフェスタ — 不登校・今 —」を開催しました。



当日は晴天に恵まれ、県内各地から250余名の方々にご来場いただきました。

京都美山高等学校長の
大野実先生の講演や、
姫路市在住のキーボード
＆ボーカルユニット
「ぴゅあ」のミニコン

サート、餅つきやグラウンドゴルフなどの体験活動、温泉、ぜんざい、焼き芋など、様々な催し物に参加いただき、ゆったりとした時間を過ごしていただけたようです。

初めての試みでしたが、参加者からは、「これまであまり不登校について考えることはなかったが、いろいろと理解できた」「とってもあったかい気持ちになった」「子どもたちも、ここではゆったりとした気持ちで過ごせるのですね」「来年もやってほしい」といった嬉しい感想をたくさんいただきました。

この事業については、来年度もぜひ開催したいと考えております。より多くの皆様のお越しをお待ちしております。



お知らせ

「一日体験」について



雪で覆われたいろいろの館

「但馬やまびこの郷での活動には興味があるけど、宿泊できるかどうか不安だ」という児童生徒や保護者には、「一日(半日)体験」を勧めてください。実際に当所に来て、施設を見学したり、活動を体験したりすることができます。同時に保護者や先生方の相談も受け付けております。入所中の子どもの様子を見に来ていただいても結構です。

ぜひ、但馬やまびこの郷へ足をお運びください。事業等の関係でお受けできない日もありますので、まずは電話でお問い合わせください。申込書類については、ホームページからダウンロードできます。